

国際ゴールドマスターズ奈良大会参加・旅日記

2018年10月26日～10月29日

7月22日、35回九州マスターズ陸上競技選手権大会に参加し1週間が経過した頃、心と国際ゴールドマスターズ奈良大会の事を思い出した。39回の全日本マスターズ大会は諸般の事情で不参加にしていたため、今年の大い大会はもう無いかと諦めていた。春先から体調も順調に推移していたから、あと一度くらいは走ってみたい気持ちがあったので、この大会に出場してみたいと思うようになった。

よくよく調べて条件が叶うならばと、交通アクセス、宿泊、日程スケジュール等を検討し、参加申し込みに踏み切った。8月3日インターネットから必要書類をプリントアウトし、銀行振り込み作業を終え、無事完了。

あとは交通手段である。JRにするか、船にするか、飛行機にするか、関空か、伊丹か・・・
航空券が安い!! 伊丹から奈良までの直通バスがある!! ということで「75旅割り」で予約完了。

次は宿泊施設。もう間に合わないかもしれない。あちこち探した、意外なところにあった。

バス終着停留所から徒歩7,8分。競技場まで歩いて20分ほどの場所。申し分なし。すぐ予約、OK。

8月いっぱいをかけて準備万端整った。あとは本番に向けて体調を保持しなければなるまい。

国際ゴールドマスターズ大会は、正直言って殆んど興味を持っていなかった。一体どのような大会さえ知らなかった。国際という言葉から、広く外国選手にも呼びかけその輪を広げていく狙いがあるのだろう・・・そんな程度であった。勿論今年で何回目か知る由もない。

調べてみた。2007年の1回目が和歌山、2009年の2回目、2013年の3回目が京都、そして5年ぶりの2018年の4回目が奈良と言うことで定期的に行われている訳ではないらしい。

全日本マスターズ陸上競技連合会長が和歌山出身の鴻池氏なので、彼の提唱からもマスターズ発祥の地で行われるのは至極当然の事であろう。京都、奈良を選んだのも日本が世界に誇る歴史の街で、外国選手にとっては非常に興味があり、日本の美を観る絶好の機会ということだろう。かくいう私も「奈良」という開催地を目にした時、今までとは全く違う気持ちになったことは確かだ。参加したいと思ったのは、前述の条件もちろんあるのだが、もっと強い誘惑にかられたのは、「古都奈良」への郷愁感であった。

10月26日(金)

快晴の秋空のもと、大分空港から1時間、大阪伊丹空港へ。そこからはリムジンバスで近鉄奈良駅までの直行便。長い阪奈トンネルを抜けるともうそこは奈良の街。大分空港を発ってから2時間ほどでもう奈良に到着。開催地までを乗り換え一つで来れるのは非常に有難い。乗り換えてから延々と時間を費やすのは、遠距離からの参加者にとって大きなハンディである。であるからこの奈良開催は大正解だと拍手喝采。

渋滞する市内をゆっくりバスが走る。「なんと人の多い事か!! 外国人観光客のなんと多い事か!!」

1300年前のゆったりと流れる歴史を感じる街に、私もこうして溶け込もうとしている。

終点で降りると目と鼻の先に世界遺産の偉容が飛び込んできた。春日山原始林の麓に点在する数々の古代建造物や自然林の美しさに息を呑んだ。「来てよかった」と全身が打ち震えた。

昼前に到着したから、たっぷり時間はある。当初の予定通り宿泊施設に荷物を預けて、明日から始まる陸上競技場へ出向こう。今回宿泊する「古っ都ん 100%」というユニークな名前のペンションが興福寺のすぐそばにあ

り、バス発着場から徒歩で7,8分。途中観光客でごった返す商店街を通り抜け簡単に見つけることが出来た。

土地勘を覚える意味もあって、競技場までバスを利用してみた。始発停留所を間違えてずいぶん遠回りしてしまったが、およその距離感、土地勘が分かり明日からの往復の目処がたった。

競技場に到着後、受け付けを済ませ早速プログラムを開いた。エントリー人数はあらかじめ把握していたが、どのようなメンバーがエントリーしているか興味があつたので、各種目のページを開いて「おお、ライバルの鈴木氏がエントリーしている」と嬉しい気持ちになった。先だつての全日本大会での3冠覇者なのだ。

大きな目標が出来た。彼に勝つため練習をしてきたのだ。一緒に走れることが一番うれしい。

程々に練習を切り上げ、帰りは暖かな陽射しを浴びながら徒歩で市内に戻った。途中で数時間遅れの昼食を済ませ、チェックインまでの時間を名所見物と洒落込んだ。

奈良県で世界遺産に登録されているのは「法隆寺地域の仏教的建造物」と奈良市内に点在する「古都奈良の文化財」の2件である。その後者の中に東大寺（正倉院含む）、興福寺、春日大社、元興寺、薬師寺、唐招提寺、平城宮跡、春日山原始林の8件がほぼ一堂に集まっているのだから観光客にはたまらない。

1300年前の政治の中心地平城宮で、時の権力者藤原一族、歴代天皇らが繰り広げた一大スペクタクル。

「古事記」「日本書紀」と言つた大叙事詩が編纂されたのもこの地なのだ。凄いぞ。さあ、タイムスリップだ。

興福寺の境内に入った。広々とした敷地内に建つ古式豊かな木造建築。

今回の超目玉は何といっても中金堂だろう。300年ぶりに再建し、つい先だつて落慶式を終えたばかり。色彩も鮮やかに観光客の目を惹きつけていた。東金堂、五重塔、北円堂、南円堂・・・国宝の仏像らも勢揃い。

ここはまさに藤原氏のための寺と言ってもいいだろう。猿沢池から望む興福寺の秋はことさら美しい。

競技期間中、暇があれば出向いて歩き回った。早朝、あるいは夕映えの五重塔の美しさは例えようもなかった。

10月27日（土）

前日の晴天とはうって変わって雨が降りそうな模様、明け方に少し降った跡があり道路が濡れていた。

まだ薄暗い6時にペンションを出発。競技場まで徒歩で向かった。幸い雨は降らずそれほど寒くもなかった。

15分ほど歩き、コンビニで朝食を買い入れ店内で喫食。この様子だと雨の心配はなさそうだ。

7時少し前、競技場に到着。補助グラウンドは7時から開門、トラックはまだ濡れているが、ゆっくりとアップ。

今日の競技は9時過ぎから100m1種目のみなので、それなりの調整で時を過ごした。

昨日と今日もここまでずいぶん歩いたことで両足の薬指に水膨れが出来てしまった。思わぬアクシデント。

ピンで血豆と水膨れの応急処置をしたが、スパイクを履いても違和感は否めない。マイナス要因が出来ちゃった。

招集時間になり、その場所に行くと鈴木氏（東京）がいるではないか。「やあ、久しぶり。お互い病気もせず怪我もせずこうして会えた」ことに感謝である。全日本で3冠制覇の鈴木氏だが、逢ってみるとやはり加齢による疲労の色は隠せないようだ。発言もいつもと違って若干弱弱しく聞こえた。

結果だけ記しておこう。1位中村 14.05 (+1.3m) 2位鈴木 14.63 3位尾崎 14.79

日本記録の更新を目指して参加したが、程遠い結果に終わった。これが実力かも知れない。

10時過ぎに今日の競技は終わった。さてあとの予定は再び名所見物だ。

軽いリュックを背負い運動着スタイルでの古刹巡り。競技場を後にしてほどなく、道路から少し中に入ると「聖武天皇陵」「光明皇后陵」があるという。聖武天皇と言えはあの東大寺大仏建立の最高責任者ではないか。

そちらに向かっていると「転害門（てんがいもん）」という古めかしい建造物が見えてきた。珍しい名前だ。近づく地域ボランティアの方が親切に説明してくれたが、あいにく耳が不自由なものだからよく聞き取れない。なんでも、聖武天皇が東大寺の守り神として宇佐八幡神を勧請し、この門を通して東大寺の東にある手向山八幡宮に向かった・・・そんな内容であった。私が大分から来たことを言うと、「ここは大分と無縁ではありませんよ」と親し気に話してくれた。国宝施設が街中にポンと出てくるから奈良ってすごい。今回興福寺中金堂の建て替えの時、柱になる樹木が国内に無く、アフリカとかインドから調達するため、ずいぶん年数がかかったとか。当時は国内に沢山大きな樹木があったのだなあと地球規模の環境変化を考えてしまった。この時、横でやはり陸上帰りの恰好で説明を聞き入っていた女性がいたので、今回の大会の事や今日のこれからの予定を伺うと私の予定と同じようなので「これもご縁でしょうか」と意気投合。名前を伺うと神奈川県から参加した W70 の中村さんだという。「やあ、これまた奇遇。」と思わぬ一期一会の旅となった。聖武天皇陵、光明皇后陵を見て東大寺に向かう途中で、ボランティアの方が指指して言うには、明石家さんまさんが学んだ小学校だという。純和風の立派な破風づくりの講堂・本館は、周りに正倉院や東大寺があるため学校とは思えない。国宝の一建物だと見物に来た誰もが思うに違いない。建設費の超過分を市議会で釈明した時、正倉院に隣接しているため、防火建物で建設することを条件に、宮内省から下賜金として獲得したといういわくつきの学校だという。今日一番のお目当てである東大寺に着いた。やはり雄大だ。古代木造建築物の偉容に圧倒された。巨大な柱をどうやって切り出し、運搬し、据え付けたのか、あの高い所の組み立てはどのようにできたのだろうか・・・クレーンや重機の無い時代に・・・いやあ凄いものだと感嘆の声が出る。南大門の阿吽の仁王像もそのスケールの大きさに圧倒された。1 本の木で作ることは不可能だ。どこでどのように繋ぎ合わせているのだろうか。カーッと見据える 8m もの巨像に、何もかも見透されているように感じた。一通り見終わった後近くの蕎麦屋に入り昼食、ここで彼女とは別行動。明日の競技でお互い頑張ろうと別れた。

東大寺の境内を抜け、春日大社参道入り口を横切り、再び興福寺にやってきた。とにかくどこもここも観光客で一杯。奈良市内への年間観光客入込数は 1600 万人を超えるという。京都の 5300 万人には及ばないが、人口比では奈良のほうが多いようだ。京都、大阪、名古屋方面から電車やバスで乗り入れ、世界遺産を心ゆくまで見物して、その日のうちにさっと切り上げるとするのが一般的なパターンらしい。だから宿泊客数も少ないし、消費額も京都に比べると格段に少ない。確かに買うべき土産物が見当たらない。これは宿のご主人が話していた奈良の実態で、湯布院を引き合いに出してぼやいていた。話が横道に逸れてしまったようだ。帰りのバス乗り場と予約をするため、始発停留所の確認に出かけた。場合によっては予約なしでは乗れないこともあるそうだ。これだけの観光客だから、確かに起こり得る話だろう。バス案内所で予約をしたのち、商店街に出かけ少し早い夕食。グラスワインで軽く咽喉を潤し中華料理に舌鼓。うーん満足満足!! タぐれの街中を抜けてペンションに帰着。ひと風呂浴びてベッド上でゆっくりくつろぐ。今夜も寝不足かな。

10月28日(日)

2 日目の競技は、午前中に 200m(9 時 45 分スタート)、午後に 60m(15 時 10 分スタート)の 2 種目がある。私の今大会の大きな目標が 200m で 30 秒を切る事であった。勿論調子が良ければ日本記録を更新したいという野望を抱いての大会であった。そのための練習を例年になく重点的に行ってはきた。やはり寝不足。旅に出ると必ず寝不足がたたるようだ。もう不断の体調ではなくなっている。

まだ暗い5時半にペンションを発つ。寒い!! 10月末だ、寒いのが当然。日中の軽装で出たため冷気が身に沁みる。歩いているうちに体温も上がるだろう・・・興福寺、猿沢の池、まだ明けやらぬ森閑とした風景が素晴らしくネットには無い素敵な写真が撮れた。30分ほど境内を歩き回り競技場に向かう。昨日同様、途中のコンビニで朝飯を喫食。明るい朝日が射し込んできた。絶好の運動日和である。朝から少し風があり競技への影響が気になる。でも雨よりはましだろう。

今日は楽しい競技があるのだ。エキシビジョンでM45とM85クラスの100m×4リレーがある。いずれも世界記録の更新をかけた期待の競技である。

M45クラスには、武井壯氏、朝原宜治氏など有名人のほか譜久里氏、佐藤氏など45歳では国内トップクラスのメンバーを揃えての挑戦。85歳クラスも田中氏を始め錚々たるメンバーで臨む。

今日の競技に先駆けてスタート。順調に行ったかに見えたが、2走から3走へのバトン引継ぎに失敗、3走、4走は走らないまま終了、残念無念。でも沢山の応援をもらって選手らの顔は晴れ晴れとしていた。感動をありがとう。85クラスの選手は見事世界新!! 主催者の心憎くも楽しいプログラムであった。

9時45分、M75クラス200mのスタート。鈴木氏は5レーン、私は7レーン。もう先行逃げ切りのパターンしかない。練習でも全速力で100m走を繰り返していたので、従来の大会よりはスピードに乗った走りで4コーナーを回った。横を見ても誰も付いては来ていない。でも鈴木氏は後半が強いので力は抜けない。4コーナーを過ぎた途端向かい風2mが立ちはだかる。最後の直線は完全に失速。それでも我武者羅に走り何とかゴール。さすがの鈴木氏も力尽きて私を追い抜くことが出来なかったようだ。

1位中村 30.62 (-2.0m) 2位鈴木 31.42 3位万波 35.11

向かい風2mでは1秒はロスしているだろう。せめて大会新の29.90は破りたかった。

またしても目標未達に悄然。力の限界? 再挑戦するか? 200は諦めるか? これからゆっくり考えよう。

15時からの60m競技までは3時間以上の「間」がある。

予め、ペンションのご主人から「近くに般若寺という寺があるから行ってみるといい」と伺っていたので地図なしでのウォーキング。昨日来の足の水膨れによる痛みが続いているからあまり無理も出来ない。治療をしたのち、3キロほどの目的地に向かって歩き出した。途中明治時代のレンガ造り「少年刑務所」の素晴らしい建造物を見ながら、20分ほどで般若寺に到着。臼杵炭焼き小五郎、真奈の長者伝説に出てくる般若姫と用明天皇との悲恋物語に関係しているのかなと興味を持って出かけたが、その般若とは無関係らしい。聖武天皇が創建したというのが定説になっているらしい。コスモスが美しく咲き乱れていた。地元の人からはコスモス寺として慕われているとの事。

競技場に戻ってもまだたっぷり時間があるので、隣の武道館で行われていたイベントの出店で昼食代わりのホルモン入りの焼きそばを食べて腹ごしらえ。時間があまりすぎるのも善し悪しだ。

日の当たる観覧席に座って1時間ほどリラックス休憩。14時過ぎ、屋根下の50mコースでゆっくりアップを行うことにした。本番が60mとあって無理な心肺機能トレは不要、軽く軽く何本かを流す程度に抑えた練習を行った。

15時10分、60mのスタート。さあ今年最後の公式競技だ、悔いのない走りをしよう。

隣のレーンに鈴木氏。号砲一発スタート。相変わらず私のスタートは遅い。鈴木氏に完全に差をつけられた。残り20mでピッチを上げることが出来た。残り10mで抜き去ることが出来たが、会心の走りとはいかなかった。鈴木氏曰く「完敗でした。それにしてもどんな練習をしてきたの?」と勝利を讃えてくれた言葉が嬉しかった。どうしても勝てなかったライバルに始めて勝利した記念すべき大会となった。

1位中村 8.93 (-0.2m) 2位鈴木 9.14 3位尾崎 9.37

表彰式の後 16 時過ぎ、ならでんフィールドを後にして再び徒歩で市内に向かった。

昨日と同じ店に入り、今日は「3 冠制覇」という結果を肴にアルコールを口にしよう。

ビールで「乾杯!!」と独り言ち。いつにない多い料理をゆっくり味わった。素晴らしき奈良に乾杯!!

夕ぐれだというのに観光客は相変わらず多い。どの顔もみんな幸せそうに見えた。

さあ、ペンションに戻りゆっくり湯に浸かり 3 日間の疲れを取り除こう。明日は奈良を離れる日だ。

10月29日(月)

昨夜は 21 時過ぎに床に就き、こちらへ来てやっと熟睡できた。それでも 4 時間程度だろうか。

早々と目が覚め、空が明るんできた 6 時、興福寺の鐘の音と同時に外出。1 時間ほどを猿沢の池、興福寺東金堂、中金堂、五重塔、南円堂、北円堂、国宝館を観に行き、朝の光の中に浮かぶ 1300 年前の雰囲気浸った。これほどじっくり見ることでできた旅はかつてなかった。

ペンションに戻り、ここで初めての朝食。洋食しかないので大会期間中はどうしても外食になってしまう。

3 泊の精算をして 8 時チェックアウト。今度来る時にもここを利用しようかと思っている。

伊丹行のバス発車時間まで 2 時間以上の時間があるので、今一度東大寺周辺を見物して行こう。

春日大社参道を 1 キロほど歩いたが、神宮まではあまりにも遠いので途中で引き返す。東大寺に向かった所で福岡のマスターズの水井氏、宮迫氏らと出会う。韓国選手団の皆さんと同行、彼らとはお互い交流を続けているとの事。いいことですね。福岡、やりますね。

東大寺、正倉院、転書門・・・今日もじっくり見ることが出来ました。

バス案内所で予約券をチケットに取り換えバス停に移動。10 時 30 分リムジンバス到着。さようなら奈良。

市の西はずれに近いのだろうか、市役所を過ぎ去ったところに平城宮跡が見えたので窓越しに写真撮影。

天皇や、時の権力者たちが国を動かしていた平城宮が、東大寺、興福寺が建立している東の地域までずいぶん遠いではないか。何故なのだろう。歩けば 1 時間はかかる筈だ。でもこの政治の中心地から少し南に下がると薬師寺や唐招提寺があるから、やはりここが奈良の中心地になるのかな。

県庁と市役所がずいぶん離れており、市民は不便を感じていないのだろうか。(余計なお世話だね)

バスはやがて奈良市内を抜けて長い阪奈トンネルに入った。トンネルを抜けるともうそこは大阪だ。

14 時 25 分伊丹発。15 時 25 分大分空港着。

26 日～29 日の 4 日間の奈良の旅が無事終わった。

大分では 38 回目の「国際車いすマラソン大会」が 11 月に開催される。健常者のように道路上で精一杯走ってみたいという足の不自由な人の願いを、障害者施設の中村博士が東奔西走し見事に立ち上げた大会。

現在は当初の思想からやや離れて「賞金」を伴う半ばプロ化した競技になっているが、外国選手を誘致する

「国際」という名目ではこうならざるを得ないのかも知れない。奈良大会では 6 ケ国から 30 人弱の外国選手が出場したという。今後有力選手が沢山エントリーして、真の「国際大会」になればいいなと思っている。奈良マスターズ陸上連盟関係者には大変お世話になりました。ありがとうございました。

2018.11.4 作文